



あごら札幌 連絡先 細田 (011) 644-2927	今月通信担当 K.6
-----------------------------------	---------------

《 今月の内容 》

「喜びの秘密」読書会報告	1.2	森沢。貧乏。そり買売春(後編)	6.7
ふーたろう日記	3	情報	8
札幌の保健所が危ない	4.5		

1996.7.1 発行

通信購読料 1,940円 (年間)

## あごら札幌例会報告

5月25日に「喜びの秘密」読書会を行いましたので報告方々もう一度性器切除について考えてみようと思います。出席者は女性9人でした。

### 〔性器切除の概要〕

現在、約1億人の女性が性器を切除されているといえますから、実に世界中の女性の28人に1人は既に切除されており、その数は年々増加しています。地域的にはアフリカ、アラブ諸国やイスラム教の影響の強い国（アジアでもインドネシア、マレーシアで行われている。ただし、イスラム教国であっても行われていないところもある。）が中心ですが、ヨーロッパ等へ移民として入国した人達が入国先へも手術を持ち込んでいますし、低年齢化が進んでいます。公式見解として性器切除禁止を打ち出している国も実態は以前と変わらないか却ってひどくなっているのが現状です。男性の割礼も多くで行われているようですが、ペニスの包皮に切れ込みを入れるだけであり、女性の性器切除とは精神、肉体に及ぼす影響に大きな差があるので、誤解を避けるため“女子割礼”という名称は使っていません。

性器切除は主として次の3つの方法で行われます。

- ①クリトリスの先端切除。
- ②クリトリスを切り取り小陰唇を削ぎ落とす。
- ③クリトリスと小陰唇と大陰唇を切り取った後、尿と経血のための小さな穴だけ残して大陰唇を閉じる（陰部封鎖）。

衛生状態のよくない中で麻酔もなく、カミソリ等で施される結果、出血や感染症（エイズ、破傷風、敗血症、壊疽等）のため死亡したりするだけでなく、慢性膀胱炎、不妊症、排尿困難、生理困難、性交困難など、切除による直接的な痛みに加え、様々な苦痛を女性にもたらします。陰部封鎖の場合、花婿は鋭い刃物で切り開き挿入しますが傷が癒えるまで性交のたびに出血と裂傷を繰り返します。出産の場合も外陰部を切除しなければ母子ともに死亡しますし、出産後もまた縫い直す必要があり、排尿、生理、性交、妊娠出産のたびに苦痛を伴います。こうした国では出産による女性と胎児の死亡が大変多いのが知られています。決して豊かとはいえない国々にとっては、経済発展の大きな阻害要因であることは間違いないのに今のところ改まる兆しはありません。

では、女性に向けられた暴力であり究極の女性支配である性器切除はなぜ行われるのでしょうか。本書にも「女は汚いところを切り取り、清潔、無垢でなければならない。切除しなければ大きくなり男のように勃起し、男の侵入をさまたげる」「膣はきつくなければならない。ゆるいことは容易にオーガズムを得られることと同義。……女性一人で快感を得させてはならない。主人である男のペニスだけが有効」という男性の論理について記されており、女性自身も「切除しなければ結婚できない。村八分にされる。」と思い込んでいます。また、イスラム教国では「女性は性欲をコントロールできない。処女を守り家族の名誉と生活を守るため、陰部閉鎖（切除）しなければならない」とされ、花婿が処女を確認して

から婚資（結婚に伴う貢ぎ物）が花嫁の父親にもたらされます。夫が長期に留守をするときには再び閉鎖されることもあります。

### [主人公タシについて]

アフリカのオリンカ族（作者の設定した架空の部族）出身のタシははつらつとしていきいきとした性格の空想好きな女の子です。彼女の母親は白人の牧師のもとでキリスト教徒になっており、娘たちの性器切除に反対していましたが、黒人牧師（アダム義父）に交替したのを機にマリッサ（産婆、治療師）にタシの姉デュラの“女の儀式”（性器切除）を頼みます。デュラは出血が止まらないため死んでしまいます。

数年後、タシは適当な時期（遅くとも10歳から11歳）を過ぎていたにもかかわらず、オリンカ族の誇りを示すために自分から進んでマリッサの手術（陰部閉鎖）を受けます。大変な苦難の末アダム（アフリカ系アメリカ人牧師）が解放軍キャンプで彼女を見つけだした時には魂を破壊された人の目をしており、もはやすり足でしか歩けなくなっていました。勇敢で無敵な女たちと連帯し、完全に女になるという彼女の思いは幻想でしかありませんでした。アダムとタシは手術前にセックスの喜びを得ていましたけれど、結婚してアメリカに渡り3カ月試みた末アダムは挿入を諦めました。このような状態にもかかわらず長男ベニーを身ごもりますが、苦しい分娩の間に脳のある決定的な部分が壊れてしまい知的障害をもって生まれてきます。タシは女の子も妊娠しますが出産を恐れ中絶してしまいました。

だんだん彼女は精神的に不安定となり何人もの精神分析医にかかった後、姉の死や“女の儀式”にまつわるいろいろな事が原因ではないかと思いがたります。タシはオリンカへ行き、今やオリンカ族の記念碑的存在として遇されているマリッサの口から母、姉、当時の自分そして彼女自身のことをききだし、マリッサを（彼女の希望どおり）殺害します。刑務所に入ってから、夫、夫の妹、息子、夫の愛人の息子、マリッサの付き添いの娘らとともにタシの夢や潜在意識の謎を説き明かし、たくさんの女たちが見守る中彼女は満足して処刑されます。

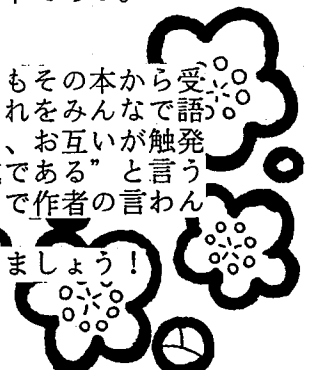
### [当日の質問や意見]

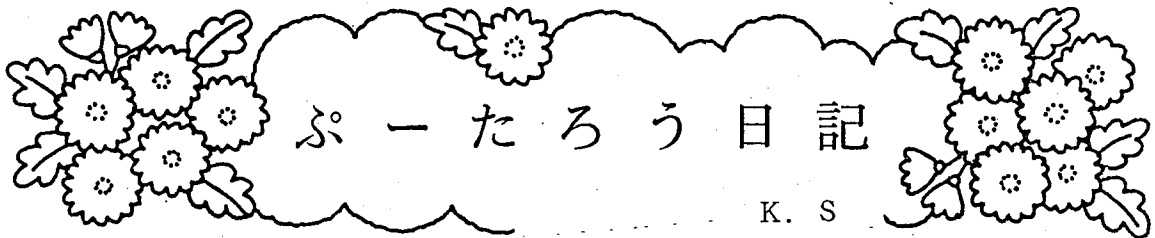
- ◎ 日本も自分が若いころに比べると処女性に関する意識は随分変化している。性器切除が行われている国々に対しても、諦めないで私たちが働きかけることにより状況を変えて行くことができるのではないだろうか。
- ◎ 昔と言っても若衆宿や娘宿があった頃は処女に対する確とした価値はなかったのではないか。夜這いとかもあったようであるし。
- ◎ 処女にでなければならぬという価値観は近代になってから出てきたのではないか。夜這いの風習は地方地方でかなり違っていたようだ。
- ◎ タシを取り巻くキーパーソンがみんな女性性を持っている（男もいるが女に対し支配力を行使するような男ではない）。性器切除は直接風習を伝えてきたのも女なら受けるのも施すのも女である。状況を変更できるのも女ではないかと思わせられた。
- ◎ 女であるというだけで苛酷な状況でありながら、なおかつ女であることを祝福している。タシが死刑になることで、後を継ぐものたちに状況を変革するパワーを感じる。
- ◎ 小説という形で書かれていることにより、ルポルタージュやドキュメンタリーよりも深さと広がりがあり、いろいろな読み方ができる本である。

### [読書会の感想等]

読書は普通自分だけの個人的なものですから、同じ本を読んでもその本から受け取るメッセージや感想は各人毎に違うのは当たり前ですが、それをみんなで語り合うことにより自分では気が付かなかったものが見えてきたり、お互いが触発しあうことでより深く理解できたりします。“喜びの秘密は抵抗である”と言う文言の意味にこだわっていましたが、みんなで考えてもらうことで作者の言わんとすることがやっと分かってきたような気がしました。

性器切除という人権侵害を世の中からなくすよう行動して行きましょう！





# ぶーたろう日記

K. S

「今日はGホテルのデザートバイキングに行ったのよ。生クリームケーキが少なくてちょっとがっかりだったけど、1,000円であのボリュームならまた行きたいわ。ケーキだけじゃなくてスパゲティ、いもだんご、杏仁豆腐、フルーツの盛り合わせ、おまけにコーヒーと紅茶もお代わり自由だったんだから。」「お母さん、また食べ過ぎたんでしょ。失業してお金が無いのに…。太るだけよ！」またかという調子で電話の中の娘がこたえる。Rの和食バイキング、Sのピザバイキング、大通りの喫茶店でやっていたバイキングetc。お得なランチセットやバイキングを食べることができるのも失業したおかげと思えば楽しくなる。

失業中は充電期間なんだからじっくり新聞に目を通し、本を読んで、映画も観て、ハイキングにも出掛けようと考えていたが、先行きに不安があると心から楽しめない。手取り早い満腹感も手に入っても、充実した生活とは思えない。職業訓練を受けたかったのに4~6倍という倍率の適性検査と面接で2回も落ちてしまった。適性は若いころから苦手だったとは言え、すごく落ち込んだ。

前の仕事を辞めた理由を聞かれれば、『同僚の急な入院と事務量のピークが定期的に重なったため家庭の維持は難しくなるし、体調まで崩して』云々と答えてきた。事実ではあるが一面の真実であり、やっぱり核心は人間関係にある。自分以外の誰かに責任を押し付けたい気もするけれど、矛先はそんな人間関係しか作ってこれなかった自分に向いてしまう。ともあれ、失業はつらいけれど辞めて正解。

ハローワークはいつもどおり失業者でごった返している。求人ファイルが定位位置に戻って来るのをじっと待っている間、周りの女性の様子をさりげなく観察する。若い人はじっくり眺め、あちこちメモを取っている(選択の余地あり)。中高年者は事務職のファイルを手にとってもすぐ返して来る(求人そのものがない)。求人情報誌の発売日には複数の冊子を買って、期待しつつ開き、失望のうちに閉じる。地元新聞の毎週月曜日と木曜日に載る求人欄も同様だ。

「お仕事決まりましたか。良かったらお話だけでも。」と、優しい声がかかった。生命保険の外交員になりませんかという誘いだった。「私たちは一緒に仕事をして行けそうな人しか声をかけていないのですよ。人間関係が一番大切ですからね。」さわやかな印象のその人の話を聞いているうちに自分でもできるかもという気になってきた。(さすが、営業のプロは違う。)

母から電話がきた。「保険の外交員はやめといたほうがいいわ。契約が取れなかったら収入は少なくなるし、辞めるしかなくなるよ。世の中厳しいんだから。せっかく見つかった職を何で辞めたのと今言ってもしょうがないけど、子供の小さいうちは無理がいかにないように仕事をしていくしかないのよ。」とのこと。

年齢オーバーで面接もしてもらえないものとあきらめつつも履歴書を送っていただいた経営コンサルタント会社から面接の電話があった。しかし、既に7月1日からの仕事が決まっていたので断った。夫は「面接を受けて条件のいいほうに行ったらよかったのに」と冗談半分に言ったけれど、冗談ではなく本当にそちらの仕事もしてみたかった。事前の電話で「忙しい時は10時、11時まで働いてもらいます」といったその会社の担当者の言葉にさえも大きな甲斐を感じた自分と結局無難な選択をしてしまった自分の落差に戸惑った。仕事に対する意欲が衰えたのかと思うと残念ではあるが、前の仕事だってやり甲斐は充分すぎるくらいあったけれど続かなかったという反省にたち納得して選んだと今は思っている。失業生活はもう少しで終わろうとしている。

# 札幌の保健所が危ない！

もう、知ってる人は知ってるだろうけれど、このまま黙っていると保健・福祉の大切なセンターである保健所がつぶされてしまう事態が、実はひそかに進行しています。

そもそもの事の発端は、厚生省が「今ほど保健所は要らないから、人口30万人当たり1カ所に統廃合して、あとは市町村で保健センターを作れ」という指令を出したことから始まります。この指令の基盤になった地域保健法は、国民のほとんどが誰も知らない間にこっそり審議され、決まってしまいました。

それでも、他の政令指定都市は、各区に1カ所ある保健所をそのまま残すか、あまり減らさない方向で動いています。なのに札幌市だけは、国の基準を上回る大胆さ(!)でなんと全市に1カ所だけ保健所を残して、あとは全部保健センターにしてしまうという方針を出しているのです。保健センターといえば横文字も入って聞こえはいいけれど、要するに人手を削って安上がりにする隠れ蓑です。だって、保健所とちがって配置する職員数も職種も法的に規制されていないんですから。「うちの市は予算がないから」とパートの保健婦だけ雇って、いろんな健診事業もどンドン外注に出して、障害者や老人の家庭への訪問やさまざまな援助だとか「余計なサービス」はやらないようにさせるには、もってこい

です。  
精神科医という仕事をしていると、子どものいない共働きだけど(普通はこういう人々が一番保健所に縁遠い人々でしょう)保健所の大切さをしみじみ感じます。だけど、札幌市の保健所の現状に満足していて大切だと思っているわけではありません。私なんか、はっきり言わせてもらえば、今の札幌市の保健所の仕事ぶりには大いに不満があります。だけど、あの人員では(人口当たりの保健婦数は他の政令指定都市の半分だし、精神保健相談員=精神科ソーシャルワーカーにいたっては半分以下)「もっと仕事せい」というのは酷だなあと思うわけです。自分ひと

\*\*\*\*\*

り(あるいは家族と一緒に)病院や相談室にいける人達はそれでいいんです。だけど、自力では適切な医療・相談機関にアクセスできない人達(その理由は経済的なものだったり、情報が不足していたり、その人を支えるネットワークがあまりに乏しかったり、自分が病気・不健康になっている自覚がなかったり、とさまざまですが)を地域で支援するのは保健所だけなのに……。

そもそも「札幌市という街は、土建屋が喜ぶような建築・土木工事には熱心だけど、その器に盛るべきなかみの充実、特にヒューマンパワーの確保には全く力を入れないところだなあ」と私はつねづね思っていました。特に福祉関係はひどい!! 札幌市の人口当たりのヘルパー数は政令都市中で最低レベルだし、さっきも述べたように人口当たりの保健婦数も他の政令都市の半分です。特別養護老人ホーム(寝たきりや重い痴呆などで特別な介護が必要な老人をケアする施設)だって3年近く待たないと入れない。共同作業所への補助だって、共同住居への補助だって、他の政令指定都市に比べたらかなり低いレベルです。こんなに高い税金を払っているのに、と思いませんか?

横浜市ではたくさんの市民が反対運動に立ち上がり、ついに各区1カ所の保健所の存続を行政に認めさせています。やればできる! これ以上保健サービスを低下させないためにも、「あごら札幌」読者の方は署名運動にご協力ください。

署名用紙は ☎065 (岡本ともみ)  
札幌市東区丘珠町487-4  
勤医協札幌丘珠病院 医局 へ送ってください。



# 選択。貧しさ。そして買売春(後編)

中山治光

なぜ、タイの山岳民族の少女たちはこのような状況の中にいるのだろうか。タイには554000人を越える山岳民族がいる。その人口は増え続けている。原因のひとつは人々が国境を越えて移住しつづけてくること。もうひとつは高い出生率。この人口増加とタイ政府の土地利用制限政策そして森林伐採があいまって、土地に依存していた従来通りの生活が維持できなくなってしまい、「外の世界」にたよらざるをえなくなった。仕事を求めて都市にでていくことになる。



ところが、政府の統計によれば、山岳民族の73.9%はタイの公教育を受けていない。文化もタイの文化とはちがう。多くの人々がタイ語を話すことができないまままだ。そのため、少女や女性が仕事を求めて都市部にきても、売春の仕事しかないという結果を招いている。また、買売春業者が山岳民族の村々に入り込み「メイド」や「ウェイトレス」の仕事があるとだまして少女たちを都市につれだしてもいる。

少女は日々生活していく中で、生活を知り、お金のもつ重さを知る。そして、ある日気がつくを買春宿の中にいる自分を知る。

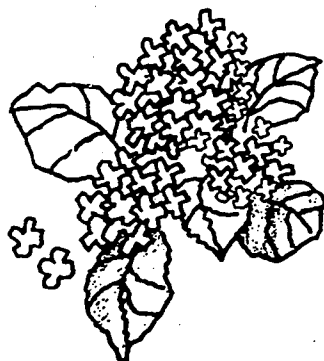
貧しさについてローランさんは語る「たしかに貧しさはひとつの大きな要因です。しかし、陰湿な要因が少なくてもひとつは存在します。麻薬依存、遺棄、欲などがあげられます」。

買春宿から救い出されセンターに送られてきたミー・テウという少女（彼女の場合、ある中国系のタイ人が同情して警察の手で、救い出せるように話しをつけてくれた）がふるさとの村をはなれた日のことは、彼女の心の中に深く刻み込まれている。その時彼女は12才だった。

「しなければならなくなるのが、どんなことか分かって、そんなことをすればきっと死んでしまうと思いました。父（義母の夫）は他にもお前のような娘はいっぱいいるんだ。死ぬようなことはない。お金をたくさん送れるじゃないかって言うんです」・・・  
「お父さんに、私が帰ってくるまで小さい子どもたちのことを見てねって言ったんです」・・・父とよんだその人の別れのことばは「帰ってくることなんか何で考える」だった。この父はアヘン依存者だった。

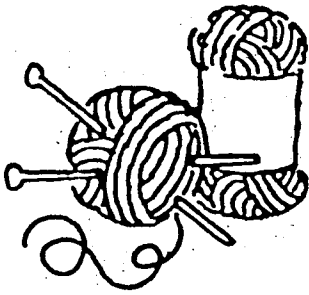
今、彼女は、「ゆくゆくは聖書学校に入って先生になる」と言う。

日本にも、廓に売った娘の稼ぎをあてにして働く意欲を失っていった親のはなしが残っている。タイ



だけのことだけではない。

買春者も貧しさを食いものにする。「根ほり葉ほり、同情めかした口をききながらすぐ付け焼き刃がはがれてしまい男の本性をまるだしにして、こそこそと帰ってゆく」これは日本の吉原で働いていた女性が3つのタイプの買春者を書いた中のひとつだ。買春した中山もこのタイプに近い買春をした。貧しさとはこのことだ。



センターに寄宿する少女（女性）たちの年齢は12才から22才。多くは14才から18才。寄宿生は夜、タイ政府公立の夜間学校に通学。基礎5学年課程に達した段階で、自分の選択でコース科目を選び、タイ政府の職業訓練所の訓練生になることができる。この選択ができるように昼の間、適性訓練の機会を提供している。裁縫や手工芸、栄養知識、衛生健康管理などの訓練がある。テレビの画面では民族衣装をつけた人形づくりが写し出されていた。この人形はボランティアを通じて日本などで一体4000円くらいで売られる。この金額は少女たちの身売りの

の額とほとんど変わらないという。

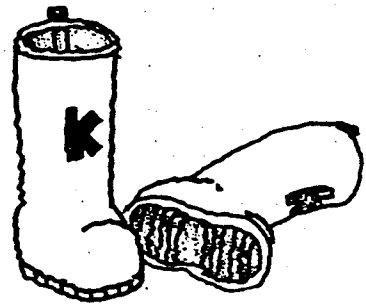
取材や編集、プライバシーの関係だと思うが、参考にさせてもらった資料の中には、寄宿している少女たちの直接の声は少なかった。その中から、4人の少女が将来の夢を語っている場面を紹介してこの稿を終えます。

「もしチャンスがあれば、お医者さんになりたいです。私の故郷は医者が少なく、病気の人が手遅れになることがあります。だから私は医者になって、自分が育った村の人たちを助けたいのです」

「私の夢は、故郷に帰って子どもたちの村の先生になることです。家にお金がないから子どもたちは学校に行きたくても行けない。だから皆、村の外の世界のことは何一つ知りません。私は村の学校の先生になっていろんなことを教えてあげたい」

「私は法律家になりたいと思っています。私たちは十分な教育を受けていないので、タイの法律を知りません。だからだまされて、子どもが売春宿に売られたりするんです。こうした教育の格差こそ、タイ社会の一番の問題だと思います。私は法律家になり、村のひとたちにいろんなアドバイスをしたいのです」

「ここを卒業したら、手工芸の専門学校に進めればいいなと……。そしていつかセンターに戻って、女の子たちの世話をしあげたいんです。（間）それだけ……」



# Information

- ◆ 6月29日(土) 14:00~16:30  
札幌市母と女性教職員のつどい・全体会  
“子どものためにも「自分」を生きる”  
—つなぐれ いのち—  
講師：鳥山 敏子(「賢治の学校」編集代表)  
教育会館 7F 「大雪」
- ◆ 6月30日(日) 14:00~  
サポートシェルター連続講座・第1回  
「性暴力の実態について学ぶ」  
札幌市女性センター
- ◆ 6月30日(日) 11:00集合  
第1回 レズビゲイ プライド マーチ 札幌  
中島公園集合(地下鉄中島公園駅入口裏)
- ◆ 7月26日(金) 19:00~  
あごら札幌 編集会議  
細田英理子宅
- ◆ 8月 3日(土) 13:00~16:00  
全道「母女のつどい」・全体会  
「世界女性会議のその後—私たちの課題は」  
講師：竹信三恵子(朝日新聞記者)  
小樽市市民会館  
※ 分科会は8月4日(日)9:00~15:30 小樽市花園小学校

映画「ナナムの家」上映会

7月14日(日)

《ジョン・ヨンジュ監督来札》

—かつて従軍慰安婦にさせられた韓国人女性たちの共同生活を撮影したドキュメンタリー—

上映 10:30, 13:30, 15:30

監督トーク 12:10~13:00,

17:10~18:00

札幌市教育文化会館4F講堂

料金/前読 1,300円(当日1,600円)

中高生1,000円(当日券のみ)

※ 問合/女のスペース・おん(622-6404)

## <編集後記>

自民党が提案した優生保護法改正案が6月18日成立した。優生思想にかかわる条項の削除は当然のことながら、人工妊娠中絶と不妊手術を内容とする改正法の名称が「母体保護法」になったというので驚いてしまった。中絶は経済上の理由によるものが圧倒的に多いことや女性のからだ(健康)にさまざまな悪い影響を与えることはだれでも知っている。

6月4日に提案、14日衆議院通過、18日参議院通過により成立したが、その間審議もなければ、起立採決もなかった。女性議員やNGOが超党派でリプロダクティブ・ライツの考え方を基本に「女性健康保障法」の素案作りを始めるなど各地で勉強会や対案作りが行われており、この際墮胎罪の廃止も含めてじっくり話し合っしてほしいと思っていたのにとても残念だった。